

別府市親亡き後等の問題解決策検討委員会（第12回） 会議録

- 1 日 時 平成28年4月26日（火）10時00分～12時00分
- 2 場 所 別府市社会福祉会館多目的大広間
- 3 出席者
 - (1) 委 員 濱本委員、大久保委員、石原委員、河野委員、河村委員、田中委員、大野有香委員、平野委員、松永委員、矢野委員、大野光章委員（11名）
 - (2) 事務局 岩尾障害福祉課長、加藤障害福祉課参事、甲斐主任
- 4 議 題
報告書案について
- 5 配布資料
資料1 別府市親亡き後等の問題解決策検討委員会（第11回）会議録
資料2 「親亡き後等の問題」解決策検討結果 論点整理表
資料3 「別府市親亡き後等の問題」解決策検討結果報告書（案）
- 6 議事概要
 - (1) 報告書の構成について
 - 文章が多くて見づらいという面があるので、図を入れるなどして見やすくする工夫が必要だと思う。
 - 「各課題の整理」を図にして、第1章の最後に表示してはどうか。
 - 見やすくするため、カラー印刷してはどうか。
 - (2) 「第1章 「親亡き後等の問題」を構成する課題」について
 - 「課題1 意思決定支援体制の未整備・生活スキルの不足」については、障がいのある人の多くは、他者からの支援を受けながら生活していくことになる。このことを前提として、日常生活を送るのに必要なスキルに加え、家族以外の他者からの支援を受けるスキル（受援能力）を身につける必要があるということが分かるような記載にすべき。
 - (3) 「第2章 各課題の分析」について
 - 「課題1 意思決定支援未整備・生活スキルの不足」中の「(1)生活支援の充実」については、その下の項目を重要度順に並べたほうがよい。そのため、「ア様々な場面で見守りを受ける体制」「イ障がいのある人の

- 特性などの情報の共有」「ウ介護等の提供体制の充実」「エ成年後見制度・日常生活自立支援事業」の順がよい。
- 「見守り」というのは多くの場合は日常のこまごました意思決定支援であると思う。そのため、「(1)生活支援の充実」中の「見守り」の中に「意思決定支援」も含むということを明記する必要がある。
 - 「(1)生活支援の充実」中の「市民後見人の育成」については、市民後見だけでなく、法人後見も解決の方向性に盛り込む必要がある。
- (4) 「第3章 「親亡き後等の問題」解決のための施策」について
- 施策の並べ方は、実現までの期間ごとに、「短期」「中期」「長期」の順で、同分類の場合は、第2章の並び順がよい。
- (5) 「おわりに」について
- 具体的施策を検討できなかったものなどについては、今後ワーキンググループや検討委員会などで継続して議論するよう要望する旨を記載する。
- (6) 事務局から
- 市長に対する報告が終わった後は、別府市障害者自立支援協議会に新たに設置する部会で議論を引き継いでいくという方向で考えている。
- (7) その他報告書案について
- 報告書を作成することはあくまでスタートで、報告書ができてからが本当に大変だと思う。
 - この報告書は完ぺきなものとは言えないが、解決のためのとっかかりにはなると思う。
 - 報告書ができてから、すぐにとりかかれるものについては速やかに動きだしてほしい。
 - 報告書は、ホームページ等で公開すべきだと思う。現状分析及び課題の整理の部分までは参考資料という位置づけで、パンフレットを作成するなどしてもよいと思う。
 - この報告書は、県内の各市町村のモデルになるものだと思う。報告書では、今まで日が当らなかつた視点を盛り込むことができた。少しは県民にとって喜んでもらえるものができたと思う。
- (8) 次回の委員会について
- 次回委員会（第13回）は、6月に開催予定。次回が最後の委員会となる予定である。
- (9) その他
- 各委員でもう一度報告書案を読んで、修正が必要と思うところは事務局に伝えること。
 - 本日の意見を事務局でまとめて修正し、報告書案を作成する。